

高速道路資産の長期保全及び更新のあり方に関する技術検討委員会
第2回 議事要旨

日 時：平成 25 年 3 月 5 日（火）17：00～20：00

場 所：コンベンションルーム A P 品川 A 及び B 会議室

出席者：委員長 藤野 陽三 （東京大学大学院工学系研究科 教授）
委員 太田 秀樹 （中央大学研究開発機構 機構教授）
宮川 豊章 （京都大学大学院工学研究科 教授）
西村 和夫 （首都大学東京都市環境科学研究科 教授）
長尾 哲 （東日本高速道路(株) 管理事業本部長）
吉川 良一 （中日本高速道路(株) 保全・サービス事業本部長）
牧浦 信一 （西日本高速道路(株) 保全サービス事業本部長）
オブザーバー 喜安 和秀 （(独)日本高速道路保有・債務返済機構企画部長）

■ 議 事

1. 委員会での検討の方向性
2. 長期保全及び更新の必要性検討の流れ
3. 対策の定義付け
4. 検討の着目点の整理
5. 変状分析と対策要件の策定
6. 今後の検討の進め方
7. 中間とりまとめに向けて

■ 主な意見

1. ソフト対策については、NEXCOでワーキンググループを立ち上げて原案を作成し、提言に盛り込む事で了解するが、人材育成も加えるべきである。
2. 点検は損傷を見つけて終わりではなく、設計内容を理解したうえで構造物の性能をチェックする手段であると認識すべき。
3. 検討の視点については基本的に了解するが、更新・修繕で建設当初の性能を上回るケースも想定していることから「健全性」ではなく「性能」という表現にすべき。
4. 大規模更新・修繕の定義や要件整理に当たり、橋梁のみならず土工・トンネルでも大規模な工事は「更新」への区分を検討すべき。
5. 長期保全の着目点に関して、土工・トンネルの場合は地質や施工方法が大きな視点となっており、再整理する必要がある。